

津幡町総合体育大会（町体）に関するアンケート集計結果

全競技団体数 39団体 内アンケート回収数 34団体（回収率87.2%）

問1. 参加者は何名でしたか？（回答23団体）

協会員・連盟員 447名 町民 570名

競技の普及・参加者の増のためにはどのような方法が考えられますか？

- ・陸上競技の場合、大人になってから砲丸投げや円盤投げ、高跳び、幅跳びなど専門的種目を始めることはほとんどない。そのため、小中高での競技体験が重要。
- ・広報誌・アザレアでの事前広報。
- ・早めに告知・募集を行う。
- ・開催地（テニスコート等）へのポスター等の掲示。
- ・これから大人の競技者を増やすのは現実的に難しい。ジュニア・中学・高校の生徒の確保が重要と思われる。
- ・地区対抗では地区によって人数が足りなくてチームが組めない状況にあり、クラブチーム戦にして人を集めてもらえば競技人口も増えて、町民の参加者も増えると思います。
- ・広報をより積極的に行う。
- ・ジュニアの育成が大切だと考えています。
- ・広報活動の充実。
- ・各競技団体からの情報発信の強化。
- ・町民体育大会についてもっと町民に知ってもらう。
- ・男子は早朝リーグ戦を開催しているので、選手の掌握は比較的スムーズであるが、女子は対抗競技が無いので発掘が難しい。
- ・開催日時を早めに決めて、事前に募集をかける。（春先、4月位に町体開催日・場所等を告知する。）
- ・競技経験者が少なく、町民の参加を増やすことが難しい。体験会を何度か開き、興味を持ってくれる人を増やす。
- ・会員の年齢が高いので町から募集チラシなどをだして欲しい。・今後も町民の皆様にお声がけいただき、この楽しい、生涯スポーツでもあるゴルフを広げていく。
- ・誰でも参加できることを広報で早め（4月号）に周知する。
- ・各地区においてグラウンドゴルフ大会等を1年に2度くらい開催していただき、そんな時にパークゴルフという競技もありますよと紹介の機会を設けていただき、まずはパークゴルフを知っていただく機会を作りみんなに知ってもらいプレーを楽しんでもらいたいです。
- ・交流大会（初心者歓迎）が声を掛けやすかった。

- ・特殊な許可が必要な競技なため、できる人は少なく減っており、持たれる方がいましたら、声掛け等をし、人員を増やすようにする。
- ・体験教室等を企画し競技のPRをする。
- ・競技の認知度を高める。(広報活動・デモンストレーション)
- ・ペタンク競技は「誰でもどこでも気軽にできるスポーツ」がキャッチフレーズです。人の集まる公園、多目的広場等での見える活動が有効と思います。

問2. 開催に関する協会(連盟)内での意見はありましたか？

- ・種目を減らして開催してはどうか。
- ・参加者を制限しないと、ある特定の種目だけ増えてしまい、競技時間が読めなくなる。
- ・協会員増加に結びつくとして、概ね肯定的な意見が多い。
- ・地区対抗なのに地区外からの参加者が多く、地区対抗の意味がない。
- ・中学校下での対抗戦としたので、普段と違った連帯感ができた。
- ・毎年、人集めに苦慮している。出場している人がいつも同じ。地区の力の差がはっきりしている。(結果はほぼ一緒)など、従来通りの開催には限界があったため、新たな取り組みに賛同している。
- ・リーグ戦を行ったので、各地区2セットマッチの4試合のゲームができて満足している。来年も出たいと言っている人も多数いました。
- ・開催することで、郡市体・県体につながる。
- ・町体は今回の方が良かった。
- ・対象を絞った方が良いのでは。
- ・1回限りにするのか。
- ・人集めの方法はどうするのか。
- ・昨年まで4地区の参加で公式競技だったが、今年から5地区になり男女ともオープンとなったのは、試合に対するモチベーションが下がる。
- ・2地区揃えば、公式競技となるよう、協議にかけて欲しい。
- ・以前から指摘されているように、中条・津幡・英田地区と井上・河合谷・笠谷・俱利伽羅地区の人口のハンディが大きすぎる。地区対抗は必要か。
- ・外より体育館で行うフットサルが良い。
- ・日中の暑い時間を避けて行う。
- ・選手や審判の人数が足りない。
- ・行政からの助成金増額をお願いしたい。(かほく市との比較)
- ・1チームの人数を少なくする。
- ・地区抵抗戦ではなく、愛好者の大会とする。
- ・協会員も少なく、4地区からの参加者を集めることが大変でした。
- ・特に町内3地区以上集まったら、地区対抗の試合をしても良いのか。
- ・競技の開会式に関係者の臨席があれば良かった。

- ・競技員だけではなかなか人集めが難しい。町スポーツ協会からの呼びかけがあれば良かったとの意見があったが、まずは自助努力をすることで一致した。
- ・もう少し早く決定していたら、(地区対抗に)参加できたかも知れません。

問3. 開催にあたり苦勞した点や工夫した点はありましたか？

- ・スタッフの人員が圧倒的に少ないため、1人が何人分もの役割を求められてしまい、不手際があった。人が足りないので、来てもらった人の経験が乏しいため、審判としてのミスもあった。
- ・アザレアが全面的に協力してくれた。
- ・予選の日にちが足りなかったため、予選を雨の中強行開催したこと。
- ・地区対抗だと人数の問題とかで出場できなかった人も、中学校下としたことで出場してくれた人もいた。
- ・部活動(顧問)との日程調整。
- ・各地区ギリギリの人数でやっていただき、無理してケガされた方もいて申し訳なく思っています。
- ・例年より早く、2ヶ月前から町体開催の呼びかけをしたので、地区からの参加者が増えたのかも知れません。
- ・別の大会と重なり参加者が減った。
- ・参加メンバーが固定化してきた。
- ・参加者集めに苦勞した。
- ・競技人口減少を防ぐため、講習会とし未経験者を対象に実施し、経験者はサポートの徹した。
- ・公式の団体戦の他に参加者で抽選しダブルスのペアを作り、個人戦を行った。
- ・町体は必要か。以前は郡体・県体の選手確保に苦勞した時もあったが、現在では協会主催の大会があるので男子は比較的苦勞はないが、女子の成年・壮年の部の選手の発掘が困難となっている。
- ・できるだけ参加者を増やせるようなルール作り、楽しんで参加できるルール作り。
- ・人数が足りないので、かほく市・内灘町・富山県から来てもらって実施している。お弁当やお茶などを皆で飲食し楽しんでいます。
- ・参加者の意見を反映し、競技方法を変えることで参加者の楽しんでいただく。(ペアーマッチゴルフなど)
- ・高齢者が多く当日の体調により欠席者も出たりして、組合せの調整が必要となった。
- ・パークゴルフを普段やっていなくて、グラウンドゴルフをやっている方をお願いしましたが、距離的に歩く距離が長く、球を打つ距離も長く大変だった様で、大変申し訳なく思いました。
- ・今回は過去に経験したことのある方、体験希望はしていたがコロナ禍で未経験だった人に声をかけてみて、複数の小学生のご家族が参加してくれました。

- ・フィールド射撃に参加してもらえよう声掛け等をし、参加者を集めた。
- ・競技人口の減少で地区別に選手を集めるのに苦労した。
- ・男女混合可、女子にはハンディをつけるなど。
- ・初めての参加者は、一回戦を終了したらルールを理解し経験者のアドバイスも理解した。当初の心配事はなかったです。競技機会をいただけたことに感謝します。
- ・競技球のストックが必要。テント、掲示ボード、サークルコートロープなど備品の充実。
- ・協会員が少なく、会場の設営に苦労した。

問4. 開催して困惑した事がありますか？

- ・スタッフの人員が少なすぎる。
- ・初めての会場であったため、受付や招集でもたついた。
- ・運営に関しては、各地区によって競技経験者が少なく、審判ができる人がいないので、やりくりで苦労しました。
- ・別の大会と重なり参加者が減った。
- ・参加メンバーが固定化してきた。
- ・人数的に20人程度が限界。
- ・協会員の増加に向けた体験教室の継続的な開催。
- ・能瀬地区の参加がない。
- ・試合の際、審判が足りないので同じ人が何回も審判をしています。練習や試合はみなさんやりたいのですが、審判となるとなかなかできません。津幡チームは年齢的なこともあり、審判は2～3名必要なので、なかなか難しい。
- ・5月町体ゴルフは区民運動会と重なり参加人数に影響がでる。(各地区の)区民運動会を同日開催することで、ゴルフ開催日との重複を避けることが可能か。
- ・協会員以外の65歳未満の人が練習に来たら、使用料がかかった。

参加者からの意見はありましたか？

- ・年齢区分を分けずに、さっさと競技を終了させて欲しい。
- ・生徒からは「楽しかった」「いつもよりレベルの高い練習ができた」「できなかったことができるようになった」といった意見があった。
- ・小学生レベルの講習会を実施したが、大人から、これくらいならできるかもという意見があった。
- ・中学生の型を披露したが、張り詰めた緊張感があったという意見があった。
- ・男女とも4地区参加だったので、得点競技にならなく、モチベーションがさがった。
- ・夜間の体育館での開催が望ましい。
- ・今までの競技にはないルールでの開催であったが、皆、行う方も見ている方も「楽しかった」と言ってもらえた。

- ・総合開会式のギリギリに体育館に来たものの、雰囲気的に2階の大体育室前までしか入れなかった。
- ・大会に参加するにあたってやっぱり費用が大きい。
- ・満足感があった。各競技者はハイテンションでした。
- ・簡単なルールでハードでもないが、戦術戦略性の高いチームプレーの競技と認識した。
- ・早速、50歳代のご夫婦が協会に入会した。

問5. 来年度も同様の形式で開催可能ですか？（回答24団体）

(1)できる	17件
(2)できない	1件
(3)方法の変更を検討	5件
(4)わからない	1件

問6. 第64回（令和5年度）大会で未実施の競技団体のみお尋ねします。

来年度の大会では実施可能ですか？（回答10団体）

(1)できそう	2件
(2)できない	5件
(3)わからない	3件

どのような形式なら実施可能ですか？

- ・幼児から小学生までの大会であれば可能。
- ・今まで同様の試合の他、個人戦又は参加者全員による赤・白に分かれた団体戦を行う。
- ・協会独自でどんなことができるかをもう少し考えたい。
- ・県スポーツ大会の予選大会となるような大会として、競技協会独自開催競技を継続して根付かせて欲しいと思います。
- ・今年と同じか、メンバーの集まりによっては町体に参加を考えています。
- ・来年度も開催が可能。参加者を8組から16組に拡大したい。

今後、津幡町総合体育大会を開催していくうえで、要望などをお聞かせください。

- ・地区対抗にこだわる理由がわかりません。既に地区対抗戦とは誰も思っていないのではないかと思います。
- ・来年も同じように中学生向けに行うのであれば、開催日に自由度があれば良いと思った。
- ・バスケット競技については、今後も開催できる状況にはならないと思う。（社会人になっても競

技を継続している人が少ないため。)

- ・町民に津幡町総合体育大会について、もっと知ってもらうこと。
- ・参加地区が少なくても公式の試合にすること。
- ・近年の少子化・働き方改革によるクラブ活動地域移行等により競技型から体験型への変革の時代が来ていると思います。スポーツ協会で実施している「のびのび教室」等をジュニアから中学生・高校生、一般へと拡大しての活動が有意義と思います。
- ・地区によっては人数が揃わないため、地区対抗戦の維持は困難になってきた。
- ・私達世代（団塊）は運動の楽しむ機会等が余りなく、町体というところでは何でも出させていただき何種目も出ましたが、今の若い人たちは町体が行われていることすらご存じなく、知っているのは一部の役員の方々だけのようには思われますが、我が家の若い者はゴルフには毎年出しています。
- ・土日祝日の練習場所、専用の練習場所、雨天時の練習場の確保が難しい。
- ・各地区対抗戦も可能となるように競技規模の拡大を図りたい。（認知度の向上、練習場の確保、様々な機会・場所での PR 活動）
- ・町体を「津幡町スポーツ週間」とし2週間位を目途に、どのスポーツにも自由に参加できる機会を設ける。時間帯は平日・土日、午前・午後・夜間に散らばると、子どもからシニアまで都合のいい時間に参加できると思います。これを会場毎に表にして周知する。